

小さい者の一人が減びることは天にいますあなたがたの父のみ心ではない。



## 社会福祉法人 小羊学園

〒431-1304  
静岡県浜松市北区細江町中川7440-1  
電話：053-437-0826 FAX：053-437-0849  
E-mail kohituji@imix.or.jp  
H.P http://www.kohitsuji.or.jp/  
発行人：稲松 義人  
印刷所：聖隷サービス(有)  
定 価：一部 30 円

2009年4月20日  
第 312 号

### 南回帰線

理事長 稲松義人

四月から、浜松市南区にあるマルカー  
トの施設長として勤務しています。四  
年前に小羊デイケアホームから分けて  
開設した通所事業所で、付帯事業とし  
て、障害児の学童保育ドルチェを併設  
しています。マルカートの定員は二〇  
名で職員は七名、ドルチェは一日十二  
三人の子どもたちにパート中心で五名  
の職員を配置しています。

私自身は、通所系の事業部門に在籍  
するのは初めてです。入所施設では二  
四時間三六五日を交替勤務でカバーす  
るので、職員は変則勤務になります。職  
員数は通所に比べて多いので、勤務  
調整しながら支援に当たれます。小羊  
デイケアホームやマルカートでは、施  
設長以外は全員が支援員で、基本的に  
職員全員が月曜日から金曜日の定時に  
勤務します。毎日、朝の送迎からはじ  
まって、朝の会、午前の活動、昼食、  
午後の活動、帰りの会をして、帰りの  
送迎という流れにそって、みんなで活  
動します。職員数が少ないときには、  
施設長も利用者支援に加わります。私  
はもともと現場出身なので、実はこれ  
を密かに楽しみにしています。

新年度の人事異動を検討したときに、

理事長兼務の私が前任の古橋施設長の  
ように利用者支援に関わることはでき  
ないだろうということで、支援センター  
わかきから主任クラスの男性職員に一  
緒にマルカートにきてもらうことになっ  
ていました。職員配置の都合で着任  
が一ヶ月遅れました。そのお蔭で、私  
も古橋前施設長と同じように、朝の送  
迎車の運転をし、できる限り活動にも  
加わり、昼食介助もお手伝いし、夕方  
にはまた帰りの送迎を手伝うことがで  
きました。利用者の半分はデイケアホー  
ム時代から顔と名前を知っている人た  
ちでしたが、直接支援する立場で関わ  
りをもつのは初めてでした。体力づく  
りと称する散歩に同行し、畑に出かけ、  
私にとっては約二〇年ぶりの支援の現  
場でした。

さすがに若いときのようにきびきび  
動くことはできませんし、疲労回復に  
は少し心配はありますが、一人ひとり  
の魅力的なメンバーとの交流に心地よ  
い身体の疲れを感じつつ、精神的には  
楽しい時間を過ごすことができしてい  
ます。

五月には着任する主任支援員に利用  
者支援の取りまとめを担ってもらい、  
施設長としての役割と、南地区での今  
後の事業展開のための方策を思案した  
いと思っています。

理事長・施設長として、直接利用者  
支援をすることは違う役割がありま  
すが、利用者が生活の場面で見せてく

れる表情からニードを身近に感じるこ  
とが、私たちの仕事の原点であること  
を忘れないように、いつも現場へ回帰  
することを意識していたいと思うので  
す。

小羊学園に就職した頃にヒットした  
歌に、堀内孝雄と滝ともはるの「南回  
帰線」というのがありました。愛する  
女性に思いを残しつつ、男としての夢  
のためにあえて超える南回帰線。それ  
を越えてしまうと軌道から外れてしま  
い安らぎのある故郷には戻れないとい  
う設定です。歌はそれをあえて越えて  
いく若さの純真さと切なさを歌ってい  
たかと思えます。

小羊学園は、浜松市北部の三方原台  
地が発祥の地となります。これまでの  
事業展開は、小羊学園（三方原スクエ  
ア）や支援センターわかきのような入  
所施設が事業展開の拠点でした。しか  
し、従来の入所施設が見直されている  
ことを考えると、これまでとは違った  
事業展開を考えなければならぬと思  
います。マルカートは、拠点施設との  
連携を考えると、これ以上は離れられ  
ない、文字通り南回帰線上にあるよう  
な気がします。小羊学園の事業展開の  
軌道から外れてしまわずに、しかし、  
これまでとは違った陽の光と季節の風  
を感じながら、南の空の下で生きる人  
たちとともに、地域に立っていつも夢  
を追い続けることができるのが、福祉  
の仕事の魅力だと感じています。

# 小羊学園の 施設は、 どこにある？

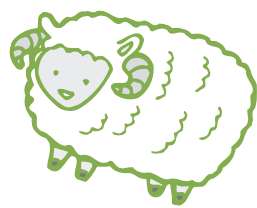
小羊学園は、昭和四一年（一九六六年）、静岡県引佐郡細江町中川で開園しました。JR浜松駅を降りてバスで北へ約五〇分、武田信玄と若き日の徳川家康が戦った古戦場として知られる三方が原台地の北のはずれに位置します。現在は、平成一七年七月に一二市長村が合併して新しい浜松市が誕生し、小羊学園も浜松市内の施設ということになりました。平成一九年四月からは浜松市が政令指定都市になり、住所が浜松市北区細江町中川になりました。

また、昨年の秋、小羊学園（児童寮・青年寮）が移転し、三方原スクエアと名称も変えました。ほんの二〇〇mほどの移動でしたが、現在地は、浜松市北区三方原町ということになります。社会福祉法人小羊学園の最初の通所施設である小羊デイケアホームは、同じく北区にあり、所在地は三方原町と隣接する根洗町ですが、三方原スクエアから歩いても五分でいける近くにあります。ケアホームの温心寮、ひだまり、あゆみホームは、地名では細江町中川と根洗町にあります。同じように三方原スクエアから比較的近いところにあります。

支援センターわかぎは、浜北区（旧浜北市）にあります。三方原スクエアから東へ、車で一五分くらいです。支援センターわかぎとの繋がりの強い通所施設オリーブの樹は、わかぎから北東に車で一五分くらいです。

三方原スクエア児童部に入所する小學生、中学生年齢の人たちは、今年度から、新校舎が完成した浜北特別支援学校に通学することになりましたが、オリーブの樹からさらに車で東に五分くらいのところにあります。

マルカートは、小羊デイケアホームから分かれて浜松市の南部に開設されました。三方原スクエアに入所する学齢児のうち高等部生が今も通学している浜松特別支援学校から車で三分のところであり、ドルチェという障がいのある子の学童保育を併設しています。



三方原スクエアや支援センターわかぎのような入所施設で、日常生活の全てを施設の中で済ませてしまうのであれば、施設の場所がどこにあるうが大きな影響はないのですが、在宅の人たちが通所してきたり、施設入所している人が通学したりという生活をするときには、地域的にどこにあるのか、交通手段はどうかということに大きく影響されます。例えば、浜松市の最北に位置する水窪町の人が、特別支援学校に通うために、あまりに時間がかかり、入所施設を利用せざるを得ないということになってしまいます。

現在浜松市の人口は八〇万人を超えたところで、政令指定都市としては少ない方ですが、面積は一五一一平方kmで、政令指定都市では一番広いことです。中区に二四万人以上の人口が集中しますが、天竜区は広大な面積に三万六千人という人口です。農村地域、中山間地域も含まれる広い面積をもつ新しいタイプの都市であり、全体的に見ると、日本全体の縮図のような都市といえるのではないかと思います。



障害者自立支援法に沿って、各市町村で自立支援協議会が設置することになっており、この地域レベルでの協議が、自立支援法の運用に関係するところでのどのような役割を果たすことができるかが、全国的にどの市長村でも今後の大きな関心事です。

浜松市では、各区に自立支援連絡会という名称でこれを設置し、必要に応じて個別のケースについての話し合いもすることになっていますが、そこで協議されたことから区ごとにまとめられた課題を全市で集約し今後の障害者施策に反映するとされています。

浜北区については、旧浜北市がそのまま区になっていますが、旧浜松市がいくつかに分けられたり、旧町村が合わさって新しい区が作られたりしましたので、区ごとに取り組むという意識もどのように根付いていくかはこれからの課題です。

また、自立支援連絡会の運営には、区役所の担当課と区内の委託相談支援事業所が協力してあたることになっており、小羊学園では、三方原スクエア内に事務所を置く「アグネス」と、マルカートに事務所を置く「アグネスみなみ」の二箇所の委託相談支援事業所を担当しています。

小羊学園の施設は、今の三方原スクエアを中心とした北区（三方原地区）での事業展開と、支援センターわかぎを中心とした浜北区での事業展開に分

けられますが、四年前に南区にマルカートを開設し、今年の夏からは中区に在宅支援センター「ぱびるす（仮称）」をオープンすることになっています。区ごとに地域を意識した取り組みをしなければなりません。複数の区にわたって事業を展開している法人としては、法人内の事業所間での協力と連携を進めたいところです。

### 静岡市にある「つばさ静岡」

小羊学園の施設で、唯一浜松市以外

にあるのは、二〇〇五年一〇月に、静岡市に開設した重症心身障害児者施設つばさ静岡です。静岡市は県庁の所在地で、浜松市より二年早く政令指定都市となりました。つばさ静岡の所在地は、静岡市葵区城北というところで、JR静岡駅から北東にバスで二〇分位



です。周りには田んぼもありますが、市街地も近いところで開園することができました。昔からの入所施設と違って、最初から地域社会の近くにあることは嬉しいことです。浜松からも場所によっては富士山が見えますが、静岡市では天気によれば、市内各所でしっかりと富士山を見ることが出来ます。静岡市も南アルプス山脈の南側までの広い市域をもつ広域型の都市と言えます。つばさ静岡は、もともと静岡県の重症心身障害児者に対する福祉施策に沿って開設してきた施設ですが、地元静岡市との連携を大切にしながら、関係するところと協力し、少しずつ地域に根ざした施設にしていきたいと思いません。

## 小羊学園・創立感謝祭

小羊学園の創立四三周年を祝う感謝祭が五月二日に催されました。今年はい三方原スクエアでの初めての創立祭でした。新しい建物は、以前の児童寮青年寮に比べると、雨天でも交流しやすい構造になっていますが、当日はとても良いお天気に恵まれ、記念礼拝のあと、昼食をばさんで午後三時頃まで、集まってくださった人たちと楽しい交流のときをもつことができました。



交流スペースでオリーブの樹のパンを販売

## 障がい児の学童保育

以前に、つのおえ(二九三号)でも紹介したことがあり、障がいのある子どもたちの学童保育をしている

浜松市内の事業所で、浜松市障がい児放課後支援連絡協議会という会を立ち上げました。

小羊学園児童寮(今の三方原スクエア児童部)が夏休み特別デイサービスをはじめたのは一九九六年です。小羊学園では既存の施設を工夫して使った「あっとほーむ」、浜北市社会福祉協議会(当時)の事業としてスタートした「ほっとたいむ」など、いまでは市内に一〇を超える放課後支援事業所があります。

管理者の会議とは別に、直接子どもたちへの支援をしている職員による会議も隔月で行なっており、学童会議と呼んでいます。

五月一三日、今年度第一回目の学童会議が、アンサンブル江之島六階の会議室で、八事業所から一六名が出席して開かれました。

障がいのある子どもが家庭で育てられるためには、欠くことのできない事業です。小羊学園では、三方原スクエア児童部(北区)、ドルチェ(南区)、わか(今年度より浜北区)、に続いて、中区に開設準備中の児童デイサービス「ぱびるす」においても、放課後支援を開設する予定です。子どもの時代から必要な支えがあることで、家庭での健やかな成長の一助となることができれば幸いです。

## 小羊学園を支える会だより

小羊学園を支える会は、社会福祉法人小羊学園の後援会です。支える会の会費としてご送金くださるもののほか、小羊学園の事業に対する寄付金の受付事務を代行しています。

小羊学園への寄付金には、社会福祉法人小羊学園の事業全体への寄付の他に、法人内の諸施設(三方原スクエア、支援センターわかぎ、つばさ静岡、小羊デイケアホーム、オリーブの樹、マルカート、温心寮、ひまわり、ぱびるす)に対する寄付もあります。その際には指定先施設名を明記してください。

旧小羊学園児童寮・青年寮は、施設名が三方原スクエアとなりましたので「三方原スクエアへの寄付」と指定してください。特に施設への指定のない寄付は、小羊学園(社会福祉法人)への寄付として受けさせていただきます。

### 2009年度寄付金報告

4月受付分 516,550円(32件)

### 小羊学園を支える会の口座

(口座名義)「小羊学園を支える会」

郵便振替口座 00890-4-45415

りそな銀行浜松支店 (普通) 040005

静岡銀行細江支店 (普通) 043483

ご希望があれば、郵便振替用紙をお送りします。下記へご連絡ください。

三方原スクエア ☎053-414-1833

## つばさ静岡・看護師募集

医療施設でもある重症心身障害児施設つばさ静岡では、看護師の配置基準を確保することが大事なことになります。重い障がいに加えて医療的なケアが必要な人たちの暮らしを支えてくださるスタッフを募集しています。

また、周りにお心当たりの方がありましたらご紹介下さい。



▼連絡先 つばさ静岡  
TEL (054) 249-2830

## 編集後記

マルカートのあるアンサンブル江之島という建物は、鉄筋コンクリートの六階建て最上階に見晴らしのいい会議室があります。南はすぐ遠州灘から太平洋が広がっていますが、東西と北側には浜松の市街地が見渡せます。そこから見渡せるまちが、まさしくマルカートにとって「地域」です。このまちの中に、障がいのある人もない人も一緒に生きているのです。様々なかたちでつながりつつ、そこで生きている一人ひとりの生活に、安心と希望がありますように心から願います。そして皆様の生活にも、安心と希望がありますように心よりお祈りいたします。(I)